

スーパー マイクロ コンピューター (SMCI)

【セクター】 情報技術

信買

【市場】 NASDAQ

信売

【企業概要】

米サーバーソリューション会社。データセンターやクラウド、AI、5G/エッジ・コンピューティングなど様々な市場向けに、サーバーおよびストレージ・システムを提供しています。顧客は米国を中心に世界100カ国以上で、直接販売している企業が1,000社以上、間接販売チャネルを通じたエンドユーザーは数千に上ります。国・地域別売上高構成比（23.6期）は米国が67.9%、アジアが14.8%、ヨーロッパが14.1%、その他が3.3%です。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
22.6期	5,196	290	5.40	0.00	27.3	22.6	44.5
23.6期	7,123	638	11.39	0.00	37.4	37.7	53.7
24.6期（予）	14,471	1,272	21.60	0.00	61.2	42.3	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

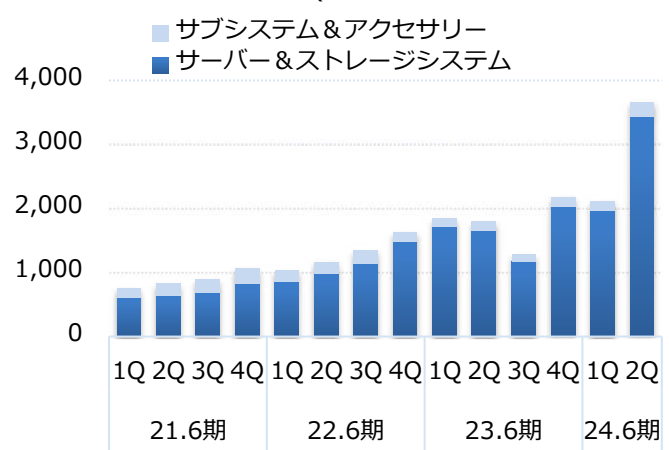
【主要指標】

売上高と調整後純利益の推移（百万ドル、通期ベース）



（出所）BloombergデータよりSBI証券作成

部門別売上高の推移(百万ドル、四半期ベース)



（出所）BloombergデータよりSBI証券作成

【会社の見方】

サーバーソリューション業界において大手のシスコシステムズやデル、ヒューレット・パッカードなどと比べると企業規模は比較的小さいです。その分、業績変動が大きいのが特徴の一つと言えます。たとえば、過去3年間（23.6期基準）では売上高が2.0倍に、調整後純利益は5.5倍になりました。コンピューティングおよびAIプラットフォームの高速化に対する需要拡大が追い風となりました。事業戦略として、クラウドやAI、5G/エッジ・コンピューティングなどの成長分野に力を入れてきたことも功を奏したと言えます。たとえば、2022年9月にいち早く、エヌビディアの最新GPU「H100」を搭載した新しいシステム製品のフルラインナップを発表しました。23.6期は通期の売上高が初めて70億ドルを達成しましたが、経営陣は短期的には100億ドル、中期的には200億ドルという目標に向けて成長戦略を実行していくと意気込んでいます。

【見通し・注目点】

24.6期2Q実績と3Qガイダンスは市場予想を上振れました。通期売上高見通しの大幅な上方修正（100億～110億ドルから143億～147億ドルに）もポジティブ・サプライズです。経営陣は需要が供給を上回っていると、「このAIブームは何年とは言わないまでも、さらに数四半期は続くだろう」とコメントしました。当面、同社はAI投資ブームの恩恵を受けると予想されます。

## 本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

## 手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、商品先物取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法等に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。